

標高1000m付近に見られるブナ純林のブナはランダム分布している場合が多いが、この場合は集中班の形成が見られる点で、ブナ純林と異なっていることが明らかになった。しかし、低木層の構成種が集中分布する傾向はブナ純林と同様であった。

5. まとめ

- (1) 二上山山頂にみられるブナ林に、 8×10 mの方形区を設け、毎木調査を実施した。
- (2) 林分全体の密度は6875/haとかなり高密度で、その内、ブナが最も多く33%を占めていた。
- (3) ブナ林要素は出現個体数の71%で、照葉樹林要素(13%)の5倍以上であった。
- (4) 種多様性を示す指数 α 値は6.1で、ブナ二次林より小さいが、冷温帯のブナ純林よりかなり大きな値であった。
- (5) ブナの更新は継続し、コナラは継続していないことが推定された。
- (6) ブナは、小さな集中班がランダムに分布している状態で、総個体でも同様であった。

6. 引用文献

- 気象庁編. 1982. 日本気候表その2. 気象庁.
- 吉良竜夫. 1945. 京大農学部園芸学研究室.
- 佐藤 卓. 1988. 富山県高等学校教育研究会生物部会報, 11: 40-45.
- 鈴木玲子. 浅見和弘・佐藤 卓. 1988. 富山県高等学校教育研究会生物部会報, 10: 20-39.
- 富山県地学会編. 1986. 富山県の地形・地質, 富山県.
- 細口義晃・佐藤 卓. 1989. 富山県高等学校教育研究会生物部会報, 12: 34-46.

イノデータブノキ群集の北限地域をたずねて

南保小学校 本瀬 晴雄

1. はじめに

東北地方は、常緑広葉樹林の北限地域である。筆者は、常緑広葉樹林の中でも最も北まで発達しているといわれるイノデータブノキ群集を追って、日本海沿岸を北上してみた。

東北地方におけるイノデータブノキ群集は、太平洋岸に比べて日本海岸のほうが、湿度が高く降水量が多いこと、さらには、太平洋岸に比べて開発が少ないことが相まって、丘陵地や神社林として多く残されているといわれている。

日本海岸のイノデータブノキ群集の北限は秋田県本荘市とされているが、これより北の青森県岩崎村には、高木層にタブノキが優占する林分があり、亜高木にタブノキが混じる林分はもっと北にあるようである。事実、山形県温海町、遊佐町(吹浦、滝の浦、女鹿)、秋田県亀形町、金浦町、仁賀保町、そして、本荘市親川と、見事なイノデータブノキ群集が、丘陵地の南斜面から東斜面や神社林に見られる。

筆者は、主として、神社林として保全されているイノデータブノキ群集を観察して、北上したのであるが、北限とされる本荘市大字親川にある、御獄神社林のイノデータブノキ群集について報告する。

2. 御獄神社林のイノデータブノキ群集

(1) 調査月日

平成元年10月22日(日)

(2) 自然環境

御獄神社一帯は、1ヘクタールほどのイノデータブノキ群集を含んで、ヤブツバキ群落、エゾイタヤーシナノキ群集、カシワ群落、ケヤキ群落等によ



本荘市大字親川の御獄神社イノデータブノキ群集

て構成される、面積5.76ヘクタールの親川自然環境保全地域に指定されている。

この地域は、海からの北～西方向の風が非常に強く、人家のまわりの樹木(エノキ、ケヤキ、カシワ等)は、見事な風衝樹形を呈している。また、強風の吹きつける丘陵の北面～西面には、風衝樹形のカシワ群落やエゾイタヤーシナノキ群集が発達し、イノデータブノキ群集は、風背

地である南面～東面に発達している。

(3) イノデータブノキ群集

面積は約1ヘクタール。小規模ではあるが、樹冠がほぼ密閉されたタブノキ林である。

しかし、林内の種組成は貧弱で、しかも階層構造は、高木層、亜高木層、低木層の3層だけである。

林床には草本類は全く見られず、タブノキ、ヤブツバキ、シナノキの枯葉が一面に堆積している。

林内の斜面上部にはヤブツバキが多いが、その樹下には、ヤブツバキの幼木よりもタブノキの幼木が多い。エゾイタヤ、シナノキの幼木は見当たらない。

亜高木層は、林縁近くになってエゾイタヤ、エノキの数が多くなる。

林縁で、低木層にヤブコウジ、草木層にオオバジャノヒゲが出現する。

タブノキ林の周囲の北面～西面は、エゾイタヤ・シナノキ群集、カシワ群落の風衝樹形林になっている。



林床にはタブノキ、ヤブツバキの幼木が生育しており、草本層は無い。

植物名	高木層	亜高木層	低木層
タブノキ	5・5	3・3	1・2
ケヤキ	+・1		
シナノキ	+・1	+・1	
エゾイタヤ	+・1	+・1	
ヤブツバキ		1・2	1・2
ヤダケ			+・1

参考文献

改訂新版 日本植物誌 大井次三郎著 至文堂

日本植生誌 東北 宮脇昭著 至文堂

日本の野生植物 木本I 編：佐竹義輔, 原 寛, 巨理俊次, 富成忠夫 平凡社

キツリフネの白花品について

梶山小学校 本 瀬 薫

○キツリフネの白花品について報告します。

(1) 生育地

下新川郡入善町舟見地内の舟川上流にある山神社付近の湿地及び細流沿い。

(2) 発見年月日

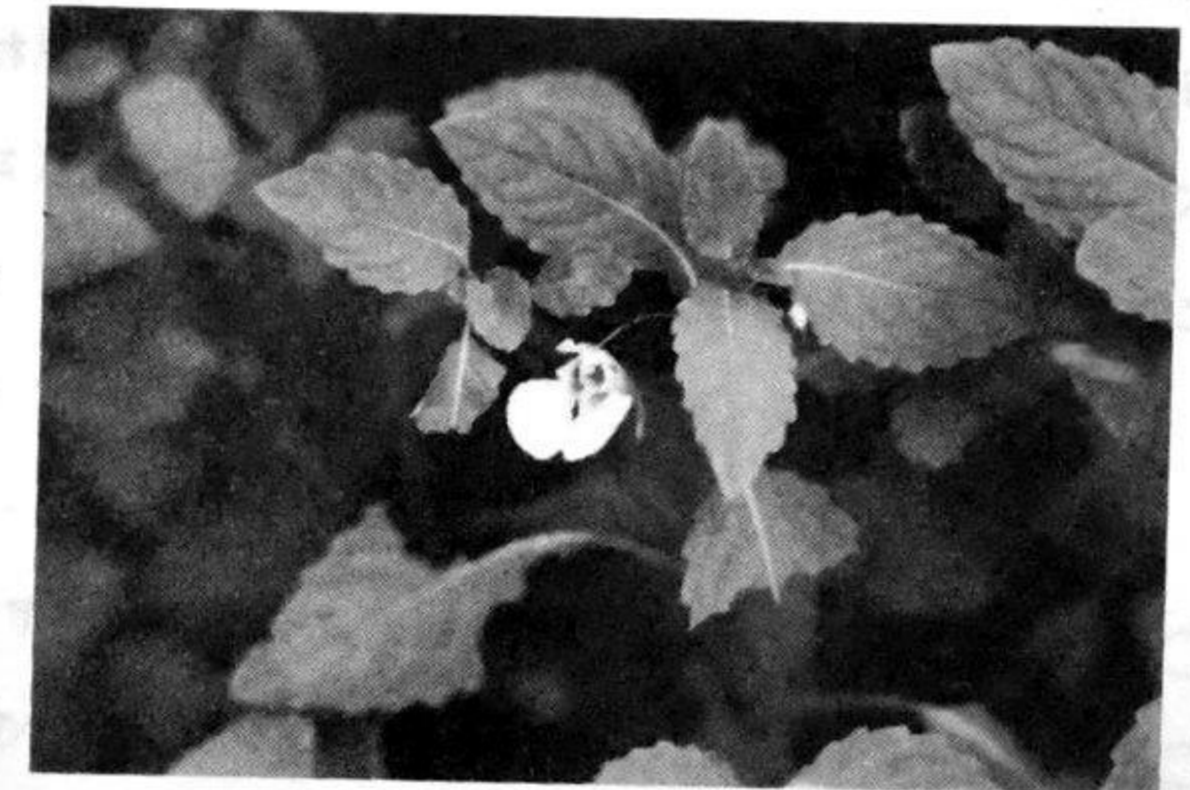
1982年9月

(3) 植物体の概観

① 葉、茎、根はキツリフネと区別がつかない。

② 花冠はキツリフネと同形。距の曲り方がキツリフネに比べて少し弱いようにも思われる。

③ 花冠の色は、キツリフネの淡黄色に対して白味が強く、微黄色である。



キツリフネの白花品。植物体は、形態上はキツリフネと区別がつかないが、花冠の色は微黄色。

(4) 生育状況

発見当時は、前記の細流沿い及び湿地内の、ほぼ20m四方ほどの範囲で生育していたが、その2年後には個体数が非常に少なくなり、絶滅するのではないかと思うほどになった。

しかし、現在では生育範囲がどんどん広がり、付近の山道の両側に多数生育するようになっている。

(5) 品種についての考察

本品は、おそらく、キツリフネ *Impatiens noli-tangere* L. の白花品ウスキツリフネform-*apallida* Hermann であろうと思われるが、同定には慎重を期したい。

参考文献

改訂新版 日本植物誌 大井次三郎著 至文堂

日本の野生植物 草本II 佐竹義輔, 大井次三郎, 北村四郎, 巨理俊次, 富成忠夫 編平凡社